

総説 シンポジウム 3**ドライマウスの実際と対策**

藤 卷 弘 太 郎

とどろきファミリー歯科クリニック (東京)

Actual condition and measure of the dry mouth

KOTARO FUJIMAKI

Todoroki Family Dental Clinic, Tokyo

要約

口腔乾燥症いわゆるドライマウスは、近年、多くの人を悩ませている。しかし、その原因が多くあるため、治療法に関しても多種を要する。そこで、今回は当クリニックで経験したドライマウスに関する症例のうち3例を紹介する。
(臨床環境 24 : 85 - 87, 2015)

《キーワード》ドライマウス, 口腔乾燥症, ストレス, 自律神経, 副作用

Abstract

In recent years the dry mouth can trouble many people. However, we need having many kinds about the cure because there are many causes. Therefore I introduce three cases among the cases about the dry mouse which I experienced this time at our clinic.

(Jpn J Clin Ecol 24 : 85 - 87, 2015)

《Key words》mouth, stress, autonomic nerve, side effects

唾液分泌量の低下で発症するドライマウスの原因 は様々であり、その症状も一様ではない (表1)^{1,2)}。

表1 ドライマウスの原因と症状

原因	老化(加齢)・更年期障害・糖尿病・シェーグレン症候群・放射線の副作用・腎不全・筋力の低下(特に口輪筋)・口呼吸・ストレス・嗜好品の過剰摂取・薬物の副作用・ビタミンおよびミネラル不足
症状	歯周病・齲蝕(虫歯)・口臭・舌痛症・異常乾燥症・味覚障害・上部消化器障害・感染症・摂食嚥下障害・会話困難

受付：平成27年10月1日 採用：平成27年10月17日

別刷請求宛先：藤巻弘太郎

〒107-0052 東京都港区赤坂3-13-13 中村ビル3F 赤坂デンタルクリニック

そのため、原因を探るための検査方法も複数存在する。一般的には情報分析としての問診に始まり、次にガーゼやガムを噛むなどの簡単な検査で唾液の量を測定する検査が行われる。この場合の問診は通常とは異なり、詳細な状況を知るための専用の問診票が用いられる。また、必要に応じて、唾液腺検査として、エックス線やMRI、CT、唾液腺造影などが実施され、血液検査によって全身状態を詳細に把握する。加えて、シルマーテストを行い涙の量の検査し、シェーグレン症候群と関連しているかを調べる場合もある。そしてシェーグレン症候群を疑う場合は口唇生検を行い、下唇の内側から小唾液腺を摘出し、検査する場合もある。その他にも、医療機関によっては、姿勢チェック、口腔内および全身の写真撮影、安静時唾液量測定検査、刺激時唾液量測定検査、口腔水分計による保湿度検査、湿潤度検査紙による唾液の貯留量の検査、カンジダ菌検査、口臭検査など様々な検査³⁴⁾を行う施設もある。

治療に関しては、齲蝕や歯周病など歯科のみで対応する場合と、全身疾患の管理要請や薬剤の変更や軽減の依頼をするために医科との連携をとる場合もある。またその治療内容も、生活指導・栄養指導・体質改善・筋機能訓練・抗酸化点滴療法・スプリント療法・水分補給・口腔リハビリテーションなどの原因療法⁵⁾や、湿潤剤の使用・モイスチャープレート・クリニック専用サプリメント・薬物療法・含嗽剤および軟膏の使用などの対症療法⁶⁷⁾に分かれる。

以下に、実際に経験した症例の中から3例紹介する。

<症例1>40代女性。10年以上前に放射線治療を受け、副作用として唾液分泌低下^{8,9)}が起きた。放射線治療を受けた直後は、唾液はほとんど出なかったとのことである。放射線治療時の線量は不明ではあるが、放射線照射30～60 Gyで腺機能は30～50%減少、片側の舌下腺・顎下腺摘出(腫瘍切除、頸部郭清術)で腺機能は25～30%減少、舌癌(放射線治療+手術)(腫瘍切除、頸部郭清術)で腺機能は45～55%減少とも言われていることから、放射線治療後の唾液分泌量の低下は免れ

にくい状況である。現状としては、以前より唾液は出るようになったものの、齲蝕等で神経の処置をせざるを得なくなり、40代で神経のある歯牙は存在しない状態である(図1)。その患者への口腔内乾燥症としての治療および指導としては、指唾液腺の分泌を促すマッサージの施行、口腔内保湿ケア製品の使用、ストレス減少(仕事をため込まない等)とし、改善に努めている。

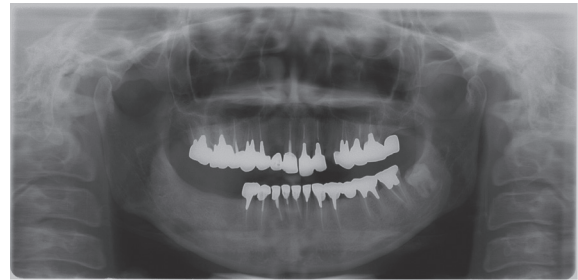


図1 症例1のオルソパントモグラフィー

<症例2>60代女性。白血病にて加療中。ストレスおよび薬物療法の副作用で唾液量が減少。複数歯の神経抜去および歯牙喪失を認める(図2)。その患者への口腔内乾燥症としての治療および指導としては、唾液腺の分泌を促すマッサージを施行、口の保湿ケア製品の使用、ストレス減少(あまり細かいことを気にしない)とし、改善に努めている。

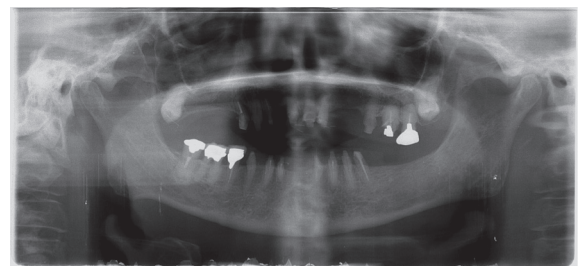


図2 症例2のオルソパントモグラフィー

<症例3>30代男性。睡眠時無呼吸症候群および自律神経失調症にて加療中。ストレス・ビタミン及びミネラル不足・嗜好品の過剰摂取・睡眠不足・薬物療法の副作用で唾液量が減少。前述2症例と異なり、神経抜去および歯牙喪失は認めない(図3)。その患者への口腔内乾燥症としての治療および指導としては、食生活の改善、嗜好品摂取

量の制限、口の保湿ケア製品の使用、規則正しい生活習慣への改善（特に入眠時間と起床時間の改善）とし、唾液分泌量の改善に努めている。

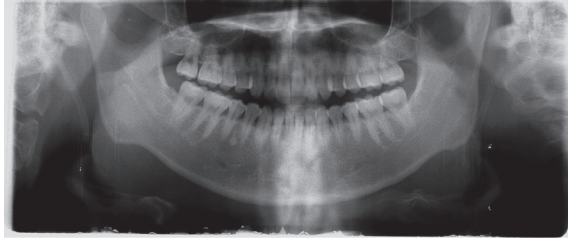


図3 症例3のオルソパントモグラフィー

唾液は、唾液腺細胞の副交感神経受容体（ムスカリン受容体）が伝達物質であるアセチルコリンにより刺激され、唾液腺細胞内の Ca^{2+} 濃度が上昇して分泌される。したがって、唾液腺細胞の副交感神経受容体を阻害する薬剤や唾液腺細胞内の Ca^{2+} 濃度の上昇を阻害する鎮静剤、副交感神経遮断剤、抗ヒスタミン剤、利尿剤、抗神経薬、麻薬、降圧剤等は唾液分泌量を減少させることがある。

また延髄には上唾液核、下唾液核という唾液分泌の中樞が存在している。この唾液核は口腔領域からの求心性知覚神経を介した刺激によって興奮し、その興奮を交感神経および副交感神経刺激として遠心性神経によって唾液腺に伝えて、唾液分泌を調節している。副交感神経が刺激されると水分の多い唾液が分泌され、交感神経刺激では有機分の多い粘稠な唾液が分泌される。そのため、延髄疾患、唾液核の障害、上位中枢部分の脳腫瘍、脳損傷、顔面神経分泌枝の障害などが生じると唾液分泌に関わる神経経路が障害されて、唾液分泌量が減少し、口腔乾燥症来たしてしまう。

症例2および3は薬物療法の副作用が否めないものの、治療の中断や薬物変更も困難であるため、必然的に対症療法にならざるを得ない部分はある。しかしながら、症例3および今回示さなかった症例においても、加速度脈波計（パルスアナライザープラスビュー、YKC）を用いて交感神経および副交感神経の計測を行うと、両神経共に顕著に低値を示していたり、交感神経優位な状態になっていることが多く認められる。

ドライマウスに対する治療は、病因によっては個々の症状や条件によりかなり異なると言ってもよく、可能な限り専門医や認定医に相談することを勧める。

しかしながら、個人個人が普段から行える予防に関しては、次のことを勧める。①ストレスをためない、②食べる時はよく噛む、③正しい食習慣を心がける、④規則正しい生活をする（特に睡眠）⑤鼻呼吸を意識する、⑥部屋を乾燥させすぎない、⑦アルコール、喫煙を控える、⑧唾液腺の分泌を促すマッサージをする、⑨口の保湿ケア製品を使う、などである。

1つ1つはそんなに難しいことではないので、それらを継続し、ドライマウスに対して予防していただきたい。

参考文献

- 1) 斎藤一郎. ドライマウス. 顎咬合誌 25: 215-218, 2005
- 2) 山村幸江. 日常診療におけるドライマウスの取り扱い. 口咽科 24: 39-44, 2011
- 3) 阪上雅史. 味覚障害と口腔乾燥症の診断と治療. 口咽科 20: 245-251, 2008
- 4) 植田栄作, 木村剛, 他. 唾液分泌低下 - その原因と唾液分泌低下に伴う口腔障害. 口科誌 52: 227-234, 2003
- 5) 柿木保明. ドライマウスに対する口腔マネジメント. 薬局 61: 433-438, 2010
- 6) 田端宏充, 川田賢介, 他. 保湿スプレー療法による口腔乾燥症患者の口腔湿度および舌背部細菌叢への影響. 日摂食嚥下リハ会誌 18: 44-52, 2014
- 7) 川口充, 澤木康平, 他. 薬物治療と口腔内障害. 日薬理誌 (Folia Pharmacol.Jpn) 127: 447-453, 2006
- 8) 大釜徳政, 大釜信政, 他. 口腔がん患者における放射線療法に伴う感覚器系有害反応と食物特性に関する文献検討. ヒューマンケア研究学会誌 1: 9-16, 2010
- 9) 唐澤久美子. 放射線治療に伴う唾液腺への影響 事前登録による多施設共同実態調査. 癌の臨床 45(4): 257-258, 1999